

# 【平成24年度】七尾市中学生 私の主張発表大会

～私たちが日ごろの生活の中で、考えたことや思ったことを伝える～

## 七尾市長賞（最高賞）

## ひとりじゃないから…

「ねえ美悠、本当に行っちゃうの？」

今まで何度そう言われて涙をこぼしたことでしょう。

私は1年生のある時から、友達との会話が途切れるようになり、気が付いたら私の周りから友達が減っていました。信頼していた友達までも心が離れていってしまい、ますます何がどうなっているのか分からなくなっていました。

だから、1時間、1時間の授業が苦しくて、苦しくて、先生の言葉も耳に入ってこなくなり、しまいには我慢できなくなつて、ついに母に打ち明けました。すると母は「つらかったね。よう我慢したね。でも、学校には行かんとだめやからね」と予想外の返事でした。その母の言葉が理解できず、母さえも私の気持ちを理解してもらえないことに絶望しました。

毎日がつらく、ひとりぼっちの日々が続いたある日のこと。母が、こう切り出しました。「引越しようと思うがいけど…」

その言葉を聞いて驚きはもちろんのこと、今の環境から開放されると

いう喜びでいっぱいになりました。

でも、その気持ちとは裏腹に、引越しを打ち明けた吹奏楽部の友達や先輩が「みーがおらんくなつたら、うちらどうすればいいか？」と涙ぐみ、気持ち混乱するような言葉をかけてくれました。

さらに、顧問の先生も「あんななら向こうでも頑張れるわいね。応援しとるよ」と励ましてくださいました。

この時、私は初めて気付いたので。ひとりぼっちだと思っていた私に、こんなにもたくさんの人たちが私を必要とし、想っていてくれたことを…。

さらに、母のあの言葉の意味に気がきました。

「学校へ行かんなんだめ」とは、「自分の嫌なことから目を背けて、逃げていてはだめだ」ということだったのです。

私は今、仲間との別れと転校を経て、田鶴浜中学校の2年生です。もちろん吹奏楽部に所属しました。

初めは吹奏楽部のみんなとなじめるかどうかとても不安でしたが、新しい環境をくれた母や自分のために

## 受賞された皆さん

【七尾市議会議長賞】  
自分を変える

竹森 清志さん（朝日中3年）



【七尾市教育委員会教育長賞】

ひいばあちゃんの笑顔

竹中 千里さん（能登香島中3年）



【七尾市話し方研究協議会会長賞】  
部活動から得たもの

高位小百合さん（御成中3年）



【奨励賞】  
夢を持つこと

赤壁奈津子さん（中島中3年）



【奨励賞】  
本を通して

石倉 裕可さん（能登香島中3年）



も前向きに歩み始めました。特に吹奏楽部では、柱となる低音のバリトンサクスを任せられました。それがとてもうれしと同時に、私を受け入れてくれたことに感謝し、田鶴浜中学校の音に近づけるよう、今まで以上に練習に励みました。

吹奏楽は、全てのパートがそろって初めて成り立ちます。パートのたった一人の音が欠けるだけでもハーモニーのバランスが取れなくなります。だからこそ、一人一人の音が大切なのです。いえ、一人一人の心も大切なのかも知れません。

そんなある日、みんなで合奏をしていた時のことです。吹き終えた瞬間、先輩が、「今の良かったぜ」「美悠ちゃんが浜中に来てくれて良かったわ」「ありがとう」と言ってくれました。私が田鶴浜中学校の仲間になった瞬間で、とてもうれしかったです。と同時に、吹奏楽をやめなくて良かったと思ひ、仲間との絆を感じました。

私は今、一人ではありません。吹奏楽、家族、学校のみながいます。寂しいと感じる日はまったくありません。

私のように、寂しいと感じている人はいませんか。

私は友達や周りの人にたくさん支えてもらいました。だからこそ、支えてもらった分、いろんな人の支えになっていきたいです。

※原文通り記載しています。



田鶴浜中学校2年生

## 森田美悠さん

【奨励賞】

エコバツクの『今』

奥村 真子さん (御成中3年)



【奨励賞】

あの日から。

谷口 沙希さん (中島中3年)



【奨励賞】

心揺さぶるもの

中川 千里さん (朝日中2年)



【奨励賞】

能登の里山里海を守るために

長崎 文香さん (七尾東部中3年)



【奨励賞】

「失敗」の大切さ

深浦 雅也さん (七尾東部中3年)

